

## 【考察】ダニエル 9:25 に関するユダヤ人への三つの再建命令

▶エズラ記にはエルサレム再建に関する三つの命令が聖書に記録されている。

- ・第一の命令：キュロス Cyrus 王の第一年の BC538/537 年頃（エズラ 1：1～4）
- ・第二の命令：BC520 年過ぎのダレイオス（ダリウス）Darius 1 世の治世（エズラ 4：24、6：1～12）
- ・第三の命令：アルタクセルクセス Artaxerxes 王の第 7 年の BC458/457 年（エズラ 7：1～28）

▶エズラ記 6：14

ユダの長老たちは、預言者ハガイとイドの子ゼカリヤの預言に促されて順調に建築を進めていたが、イスラエルの神の命令と、ペルシアの王キュロス、ダレイオス、アルタクセルクセスの命令によって建築を完了した。→三つの命令は、時期こそ異なるが、実質上は、一つの命令であったと解釈できる。

→**エルサレム再建命令**（エルサレムを復興し建て直す許可命令）

▶エルサレム再建命令

ダニエル書 9：25

これを知り、目覚めよ。**エルサレム復興と再建についての御言葉**（→命令）**が出されてから**／油注がれた君の到来まで／七週あり、また、六十二週あって／危機のうちに広場と堀は再建される。

▶第一の命令はキュロス元年の BC538 年頃（エズラ 1：1～4）

→**キュロス王の第一年にキュロス王は神殿建設を命じられた。** = **神殿建設**

エズラ記 1：1～4

**ペルシアの王キュロス**（在位：BC539～530）の**第一年**（→BC538）のことである。主はかつてエレミヤの口（→預言）によって約束されたこと（→民は 70 年の捕囚の時を過ごした後に解放される、エレ 25：11、29：10）を成就するため、ペルシアの王キュロスの心を動かされた。

キュロスは文書にも記して、国中に次のような布告を行き渡らせた。「ペルシアの王キュロスはこう言う。天にいます神、主は、地上のすべての国をわたしに賜った。この**主がユダのエルサレムに御自分の神殿を建てることをわたしに命じられた**。あなたたちの中で主の民に属する者はだれでも、エルサレムにいますイスラエルの神、主の神殿を建てるために、ユダのエルサレムに上って行くがよい。神が共にいてくださるよう。すべての残りの者には、どこに寄留している者にも、その所の人々は銀、金、家財、家畜、エルサレムの神殿への随意の献げ物を持たせるようにせよ。」

▶第二の命令はダレイオス（ダリウス）1 世の治世第二年の BC520 年頃（エズラ 4：24、6：1～12）

→**キュロス王の命令の再確認、神殿建設に関してを命じられた。** = **神殿建設**

<1>エズラ記 4：24

そのときから、エルサレムの神殿の工事は中断されたまま、**ペルシアの王ダレイオス**（1 世、在位：BC522～486）の**治世第二年**（→BC520）にまで及んだ。

<2>エズラ記 6：1～12

そこで、**ダレイオス王**により命令が出され、バビロンにある記録保管所が調べられ、メディア州の都エクバタナで一つの巻物が見つかった。それには、このように記されていた。「覚書。キュロス王の第一年、キュロス王、勅令を發布。エルサレムの神殿、いけにえをささげる場所として、以前の基礎を保ったまま（→ソロモン神殿と同じ土台の上に建てられたとされるが、キュロスが指示している新しい神殿の規模は異なる。理由は不明。王上 6：2、ハガ 2：3）、**神殿は再建されなければならない**。・・・わたし**ダレイオスが、この命令を下す。命令どおり実行せよ。**」

さらに時が経過して、アルタクセルクセスが更なる再建命令をくださった（次頁→第三の命令）。

▶第三の命令はアルタクセルクセス王の第7年のBC458/457年(エズラ7:1~28) = **神殿建設と自治権**  
→エズラ記7:1a~28の記述はBC6世紀末の**神殿の完成**(→エズラ記6:15、ダレイオス王の治世[在位:BC522~486]第六年[BC516]のアドルの月の二十三日)後から5世紀中頃(BC458/457)のことである。

### <1>エズラ記7:1a~26 **エズラの帰還**

1a これらの事があって後、ペルシアの王アルタクセルクセスの治世(→1世の在位:BC465~424)に、  
6a **エズラがバビロンから上って来た**。・・・**アルタクセルクセス王の第七年に**、イスラエルの人々、祭司、レビ人、詠唱者、門衛、神殿の使用人から成る一団がエルサレムに上り、**同王の第七年の第五の月**(→BC458/457)に**エルサレムに到着**した。彼らは第一の月(→ニサンの月で3、4月)の一日をバビロン出発の日とし、神の慈しみ深い御手の加護を受けて、第五の月(→アブの月で7、8月)の一日にエルサレムに到着した。

**エズラは主の律法を研究して実行し**、イスラエルに掟と法を教えることに専念した。

イスラエルに対する主の戒めと掟の言葉に精通した、**祭司であり書記官であるエズラに**、アルタクセルクセス王は親書を送った。以下はその写しである。

☞「諸王の王である**アルタクセルクセスは**、天にいます神の律法の書記官、祭司**エズラに**心からの挨拶を送る。さて、ここにわたしの**命令を明記する**。

①わが国にいるイスラエルの人々、祭司、レビ人でエルサレムに行くことを望む者はだれでも、あなたと共に行ってよい。

②わたしは七人の顧問官と共にあなたに次の使命を託す。

すなわち①あなたにゆだねられた神の律法に従って、ユダとエルサレムの事情を調べること、②エルサレムに住まいを定められたイスラエルの神に、わたしと顧問官が寄進する金銀を持って行くこと、また③バビロニアの州の至るところであなたが得るすべての金銀を、民と祭司がエルサレムにある彼らの神殿に寄進する献げ物と共に持って行くことである。

③それゆえ、あなたはその銀を持って雄牛、雄羊、小羊、および穀物とぶどう酒の献げ物を丹念に買い集め、エルサレムにあるあなたたちの神の神殿の祭壇にささげよ。

④そのほかあなたとあなたの仲間が適切と思うことがあれば、残りの金銀を神の御旨に従って用いてよい。

⑤あなたの神の神殿の儀式のためにあなたに託す祭具類も、エルサレムの神の御前に納めよ。

⑥その他、神殿に必要なもので費用がかさむなら、それも国庫負担としてよい。

⑦天にいます神の律法の書記官、祭司エズラの要求には、すべて怠りなくこたえるように、このアルタクセルクセス王がユーフラテス西方の全財務官に命令しておく。銀は百キカルまで、小麦は百コルまで、ぶどう酒は百バトまで、油は百バトまで、塩は制限なく与えられる。王とその子孫の国に怒りが下らないように、天にいます神の命令であれば、天にいます神の神殿のために、すべてを滞りなく実行しなければならない。

⑧また祭司、レビ人、詠唱者、門衛、神殿の使用人など総じて神殿に仕える者に、年貢、関税、交通税を課す権限が、だれにもないことをあなたたちに知らせておく。

⑨**エズラよ、ゆだねられた神の知恵によってあなたは治める者と裁く者を任命して、ユーフラテス西方のすべての民、あなたの神の律法を知るすべての者を治めさせ、律法を知らない者にはあなたたちは教えを受けよ。**→自治政治(独自の政治を行うこと)の認可および命令=自治権の付与

⑩**あなたの神の律法と王の法律に従わない者は、すべてこれを厳しく裁き、死刑または流刑、財産没収、または投獄によって処罰しなければならない。**☞**以上の命令によりエルサレムの完全回復が実現**(ユダヤ人国家としてのすべての権限を戻した)

### <2>エズラ記7:27~28 (→7:1aの解説)

わたしたちの先祖の神、主はほめたたえられますように。主は、このようにエルサレムの神殿を栄えあるものとする心を(アルタクセルクセス)王にお与えになり、わたしには王とその参議官、そのすべての優れた高官の好意を受けるようにしてくださった。わたしは、わが神なる主の御手の加護によって勇気を得、イスラエルの中でわたしと共に上って行こうとする頭たちを集めた。

**【総論】エルサレム再建命令**

キュロスもダレイオス（ダリウス）も、その命令（＝勅令）の中で、宗教と自治権（民生）の両方の回復がダニエルの預言（→ダニエル書9：25 これを知り、目覚めよ。エルサレム復興と再建についての／御言葉が出されてから／油注がれた君の到来まで／七週あり、また、六十二週あって／危機のうちに広場と堀は再建される）で約束されていたにもかかわらず、神殿再建の命はあるにしても、自治権（民政）の回復までは記述していない。

しかし、アルタクセルクセス王の第7年（BC458/457年）の命令は、ペルシアの支配下にあるユダヤ人国家に完全な自治権（すべての政治的權威の回復）を与えた最初の王の命令（＝勅令）であった。

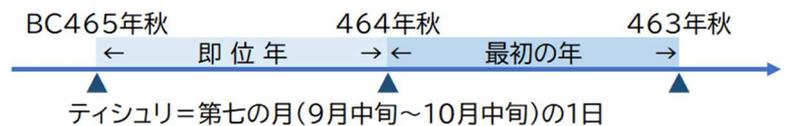
→ **エルサレム再建命令**（エルサレムを復興し建て直す許可命令）

∴この年（BC458/457年）がダニエル書9章（9：24～27）の「七十週」の開始年となる。

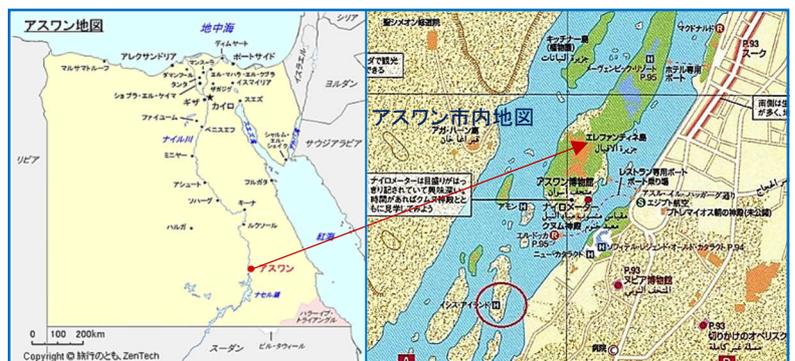
**【参考】エレファンティネ・パピルスに記されたアルタクセルクセスの即位年等**

エジプトのエレファンティネで発見されたエレファンティネ・パピルス※1は、アルタクセルクセスの即位年であるBC465年の1月に書かれたものである。この文書から、ユダヤ人の計算では、彼の「統治の始まり」すなわち「即位年」はBC465年のユダヤの新年（→ティシュリ＝第七の月、9月中旬～10月中旬）の後に始まり、次の464年の秋の新年で終わったことが推論される。したがって、彼の「最初の年」は、464年の秋から463年の秋までとなり、アルタクセルクセスの第7年目は458年の秋から457年の秋までとなる。

参考：The Seventh-day Adventist Bible Commentary, Vol 4, Daniel 9:25, Page 852



※1：エレファンティネ・パピルス（Elephantine papyri）は、エジプトのエレファンティネ島およびアスワンの国境地帯の要塞から発見された175種、数百枚のパピルスからなる。内容は手紙、家庭の法律的契約、その他の古記録である。



**【参考】関連聖句(再掲)**

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 12 / 聖句等の総数 33250]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳)
K エズラ記	1:2 「ペルシアの王キュロスはこう言う。天にいます神、主は、地上のすべての国をわたしに賜った。この主がユダのエルサレムに御自分の神殿を建てることをわたしに命じられた。	
K エズラ記	4:24 そのときから、エルサレムの神殿の工事は中断されたまま、ペルシアの王ダレイオスの治世第二年にまで及んだ。	
K エズラ記	5:13 しかし、バビロンの王キュロスはその治世の第一年に、この神殿の再建をお命じになった。	
K エズラ記	6:3 キュロス王の第一年、キュロス王、勅令を發布。エルサレムの神殿、いけにえをささげる場所として、以前の基礎を保ったまま、神殿は再建されなければならない。建物の高さは六十アンマ、間口は六十アンマとする。	
K エズラ記	6:15 この神殿は、ダレイオス王の治世第六年のアダルの月の二十三日に完成した。	

K	エズラ記	7:7 アルタクセルクセス王の第七年に、イスラエルの人々、祭司、レビ人、詠唱者、門衛、神殿の使用人から成る一団がエルサレムに上り、
K	エズラ記	7:8 同王の第七年の第五の月にエルサレムに到着した。
K	エズラ記	7:11 イスラエルに対する主の戒めと掟の言葉に精通した、祭司であり書記官であるエズラに、アルタクセルクセス王は親書を送った。以下はその写しである。
K	エズラ記	7:12 「諸王の王であるアルタクセルクセスは、天にいます神の律法の書記官、祭司エズラに心からの挨拶を送る。
K	エズラ記	7:23 王とその子孫の国に怒りが下らないように、天にいます神の命令であれば、天にいます神の神殿のために、すべてを滞りなく実行しなければならない。
K	エズラ記	7:25 エズラよ、ゆだねられた神の知恵によってあなたは治める者と裁く者を任命して、ユーフラテス西方のすべての民、あなたの神の律法を知るすべての者を治めさせ、律法を知らない者にはあなたたちは教えを授けよ。
K	エズラ記	7:26 あなたの神の律法と王の法律に従わない者は、すべてこれを厳しく裁き、死刑または流刑、財産没収、または投獄によって処罰しなければならない。」